

資料 3 - 1

平成 18 年度 ExTEND2005 基盤的研究、野生生物の生物学的研究及び  
フィージビリティースタディ 課題一覧

区分	代表研究者	所属	研究課題名
基盤的研究			
基盤 1	青山 博昭	残留農薬研究所 毒性部	哺乳類を用いた毒性実験の結果に影響を及ぼす実験動物の遺伝的要因解析と新たな内分泌かく乱メカニズムの検証
基盤 2	早川 和一	金沢大学大学院 自然科学研究科	燃焼排ガスに含まれる多環芳香族炭化水素類の内分泌かく乱作用の評価
基盤 3	中西 剛	大阪大学大学院 薬学研究科	胎児期におけるエストロゲンシグナルの gain of function とその性分化の可塑性
基盤 4	太田 茂	広島大学大学院 医歯薬学総合研究科	胎仔期、新生仔期の代謝機能と内分泌かく乱作用発現
基盤 5	鯉淵 典之	群馬大学大学院 医学系研究科	核内ホルモン受容体による転写調節における環境化学物質の作用機構
基盤 6	長濱 嘉孝	自然科学研究機構 基礎生物学研究所	メダカの生殖内分泌系に及ぼす化学物質の内分泌かく乱作用の作用メカニズムに関する研究
基盤 7	木下 政人	京都大学 農学研究科	遺伝子導入メダカを用いた内分泌かく乱物質による生殖巣初期変化の把握と回復能力の検討
野生生物の生物学的知見研究			
野生 1	濱口 哲	新潟大学大学院 自然科学系	野生メダカの性分化異常に関わる基礎的情報の収集と解析
野生 2	須之部 友基	東京海洋大学 水圏科学フィールド 教育研究センター	野生状態における魚類の雌雄同体現象に関する研究
野生 3	花里 孝幸	信州大学 山岳科学総合研究所	沿岸域を中心とした湖沼生態系かく乱の実態とそのメカニズムの解明

区分	代表研究者	所属	研究課題名
フィージビリティースタディ ( F S )			
F S 1	堀口 敏弘	国立環境研究所 環境リスク研究センター	日本沿岸における生態系かく乱の実態 解明とその要因解析
F S 2	山室 真澄	産業技術総合研究所 地質情報研究 部門	農薬がシャジクモ類減少の一因である 可能性に関するフィージビリティース タディ
F S 3	上田 哲行	石川県立大学 生 物資源環境学部	アカトンボ減少傾向の把握とその原因 究明
F S 4	岩田 久人	愛媛大学 沿岸環 境科学研究センタ ー	野生生物のリスク評価を目指した核内 受容体リガンドの網羅的解析法の開発
F S 5	鑪迫 典久	国立環境研究所 環境リスク研究セ ンター	無脊椎動物幼若ホルモン受容体の探索 と作用機構の解明
F S 6	原 俊太郎	昭和大学 薬学部	アラキドン酸代謝変動への影響からみ た環境化学物質の内分泌かく乱作用機 構の解析